

## 意見聴取シート

地域（自治会）が他の地域（自治会）や団体（大学や企業など）と連携することで、「より効果が出ると思うこと」や「解決できると思うこと」は何ですか。

## 意見等

（佐々木委員）

仙台大学と柴田町が主催して、毎年秋に開催している「東北子ども博」、今年はコロナ感染防止の様々な措置を講じたうえで、事前申し込み制で先着 1,000 人に限定するなど規模を縮小して 10 月 9 日（土）に開催する予定です。

このイベントでは地域の子どもたちが、大学構内で学生と一緒にスポーツやゲームを楽しんでいます。コロナ感染が終息したら、地域と大学の連携を深め、イベント会場を学外にも広げて、お年寄りから子どもまで参加して、楽しみながら健康づくりができるようなイベントに育てていってはいかがでしょうか。将来的には春は「桜」、秋は「スポーツと健康」と柴田町の特色を生かしたイベントになればと思います。

（志子田委員）

- ・地域の連携には必要な情報をいかに取り、活用が大事であるが、日頃から思い当たったら、情報の発信元に問い合わせ、団体、グループの協力員として活動することで、広がりができ、連携できる。「まず、自分で一歩を出す」この気持ちを、言葉だけでなく、行動するのがスタートになる。
- ・企画したときは、関連機関に相談を持ち掛けて、調整等に協力してもらおう!!官民を問わず「まず声を出してみる」少し前に出た行動により、団体、グループのリーダー等に知ってもらうことで可能になる。今までの自分が行っている活動から見て思います。

（阿部委員）

- ・これまで実施されていることで、続けたい事
- ①クリーン作戦・・・南光通りにはたくさんのお木があり落ち葉や枯れ枝が道を塞ぎます。毎年近隣の工場の方たちと 4 区の人でクリーン作戦をしています。お互いに顔を合わせる事、一緒に汗をかくことは大切にしたいです。
- ②仙台大留学生会館が区内にあるため、中国人留学生が区の集会所で餃子の皮から作るお料理教室をしてくださいました。味はさておき、お互いに仲良くなることは大切です。
- ③新しいゴミ集積所を隣接区と共同で購入・・・隣接している区により、負担金や管理などの課題も見られます。
- ④行政区と区内の諸団体との連携として・・・区スポーツレクリエーションは例えばゲームは子ども会、スポーツは体育部、芋煮は防火クラブなどと連携してひとつの事業を行います。火の用心は防火クラブと子ども会などです。少しでも事業に関わることで意識を育てると感じています。公園除草は区役員及び有志とグランドゴルフ愛好会です。
- ・今後取り組んでいきたいと思うこと

- ①フラワーロード・・・実施している所もありますが、町内各所で取り組みれば正に花の町。
- ②子どもたちの見守り・・・現在は一部の方々の努力で行われていますが、各自治会で連携して取組んだら、どこよりも安全安心な通学路が出来ると思います。
- ③災害時に高台にある工場内へ車の避難が受け入れ可能にすること。また、防災についても隣接地区や工場、企業も同じテーブルで話し合い備えて行けたらと思います。
- ④大学生のゴミ捨てマナーや深夜路上での大声など多くの苦情が出ています。地域、管理会社、大学が連携し苦言だけではなく、マナー向上の意識付けをしていかなければと思います。
- ⑤企業や大学、行政へ苦言や提言がある場合、一つの区では勇気も入りリスクも考えられます。そんな地域の悩みを、同じ考えの地域と気軽に話しできる場や情報取得、相談もできるしくみがあれば、対策が出来、不満が募ることも無くなるのではと思います。

(関委員)

- ①地域のつながりが大切。(行政区長は町内の旗振り役)
  - ・現状－物が足りないと心がつながらない現状が当町でも起きている。災害発生時(一昨年の台風19号の被害から)近年大切である。町の被害に対する無策は重大だ。平時からスポーツ等のつながりを通じて、見直すべきである。
- ②行政区について
  - ・行政区長の身分について改正を町民の大半は知らない。
  - ・行政区の世帯数は大きすぎ、200～300戸が良いのではないか。
  - ・集会所について(固定資産税をどうするか)。
  - ・町内会費について(区費、町内会費)。
- ③町の支援について
  - ・行政区によってあまりにもバラツキがありすぎる。町の指導が必要ではないか。
  - ・町から助成金について、現行より厳正にすべきである。

(佐藤委員)

- ・大雨の時に、浸水しやすい地域の方と、浸水の心配のまずない地域の方で、情報交換や、困ったときの窓口などの相談ができれば、コロナなどの難しい対応に一助にならないだろうか。
- ・仙台大学の学生の方々と、意見交換し、大学生ができることなどを協議してみたい。
- ・その他：移住を計画している町と情報交換し、柴田町への移住を実現と人口を少しでも増やす、知恵がないだろうか。

(村山委員)

町内会数名の役員、会員の意見

- ・(例)にありましたが、在宅の高齢者向けに大学生による健康体操を定期的に行ってほしい。
- ・機械による除草作業をまず地区内で協力して行い。近隣地区の住民とも連携していけるといいのではないか。
- ・避難所になっている中学校に近隣地区と連携して防災備蓄や避難等できればいいのでは。

個人的には、6月27日(日)にゆるぷらで行われたハレトケ座談会(まちづくりをテーマに4回実施)の5回目(まとめ)に出席し、参加者の声をお聞きしました。出席者は私を含め5名(船岡1、槻木2、船迫2)でしたが、毎回同様の人数だったそうです。今回このような取り組みは、まちづくり、地域の連携に役立つと感じました。

意見として…これまで個人ベースでの取り組みは、見方を変えると地域交流でもあるのでは。地域連携として広がっていくには…?漫然と考えました。

- ・テーマ(例えば地域のイベント、困りごと、仲間づくり等)を決めて、ゆるぷらにて座談会を定期的開催し、地域の交流を図る。
- ・興味関心が深まったテーマや状況を見て、参加者の中からコーディネーターを選任して、ゆるく活動を継続し、地域が連携していく。
- ・仙台大生によるカフェとしてゆるぷらを活用し、地域の交流の場所としてイメージアップを図る。

(大庭委員)

実践1「お元気ですか作戦」

認可保育園・放課後児童クラブ・地域活動支援センターしらさぎ×地域(11A・7B・1区)

実践2「花のまち柴田植栽活動」

商工会女性部×仙台大学柔道部(今年度は秋再開)

商工会女性部×パチンコダイナム職員(社会貢献事業)

実践3「花のまち柴田ラベンダー活動」

船迫中学校×学校支援V×地域(トヨタカローラ社会貢献事業含)

実践4「ユニバーサル見学会」KAI HARADA展

郷土館×視覚障がい者福祉協会「四季さくら」

企画1「花のまち柴田植栽活動」

商工会女性部×新人職員(行政・社協・企業・大学等)

船岡中学校卒業第36期会×新人職員(行政・社協・企業・大学等)

企画2「男の居場所」「大人の社会見学」

トヨタカローラ×地域×社協

仙台大学×地域×社協

自衛隊×地域×社協

福祉施設・地域食堂×地域×社協

まちづくり株式会社×仙台大学×地域

企画3「農福連携」

太陽の村×仙台大学(オリジナルメニュー開発)

太陽の村×地域(産直メニュー開発)

ふれあい農園×福祉施設（地域交流事業）

地域菓子店×地域農家×仙台大学（スイーツ開発）

（児玉委員）

- ①3.11 の災害が起きた時、避難した集会所での対応は、行政区毎に違っていたようなので、基本的には、どの行政区でも安心して避難できる対応ができるように共有できるようにする。
- ②自然災害が多発しているので、いくつかの町内会で、避難所での生活を体験したり、避難所運営を具体的にどのように行うかを、社会福祉協議会と連携して実施してみる。
- ③町内会の集会所を利用した「子ども食堂」＋「学習支援」を大学（大学生など）の支援をもらいながら、月1回程度行う。
- ④行政区毎に住民の人口や年齢層が違うので、高齢化の顕著な行政区は、隣（？）の行政区と連携して、様々な計画を合同で行うしくみをつくる。